

CentreCOM AR260S 設定例

PPPoEマルチセッションによる端末型インターネット接続 + フレッツスクウェア (NTT東日本)

PPPoE マルチセッションの設定例です。ここでは、PPPoE のセッションを 2 本使って、グローバルインターネットと、NTT 東日本フレッツスクウェアに同時接続します。各ネットワークへのパケット振り分けはスタティックな経路制御により行います。

インターネットサービスプロバイダー (ISP) からは、次の情報を提供されているものとします。

表 1. ISP から提供された情報 (PPPoE0)

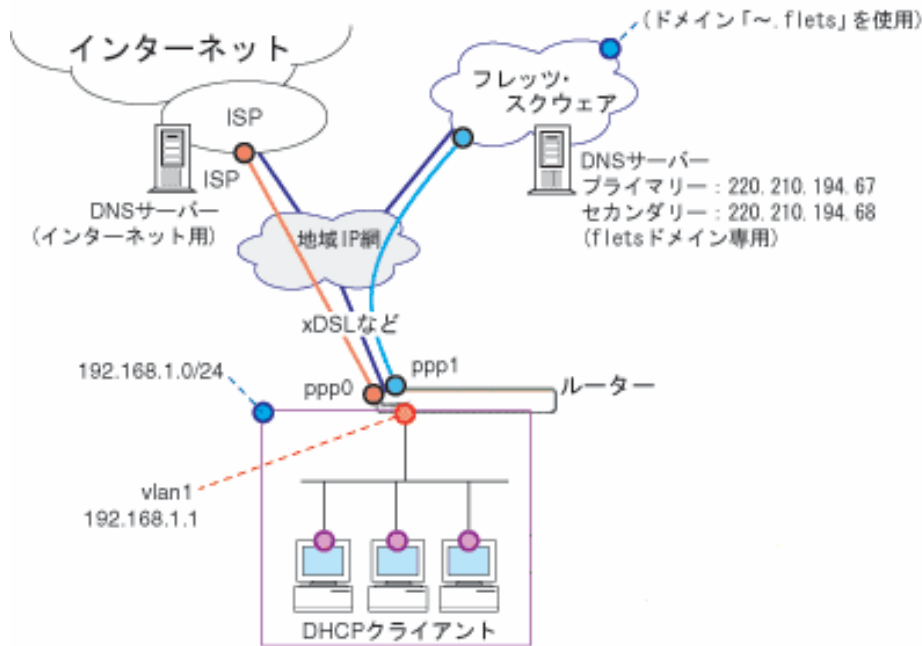
PPP ユーザー名	pppoe@isp1
PPP パスワード	pppoe1-isp-AAA
PPPoE サービス名	指定なし
IP アドレス	グローバルアドレス 1 個 (動的割り当て)
DNS サーバー	接続時に通知される

フレッツスクウェアへの接続は、次の情報を使用します。

表 2. フレッツスクウェアに接続するための情報 (PPPoE1)

PPP ユーザー名	guest@flets
PPP パスワード	guest
PPPoE サービス名	指定なし
IP アドレス	自動取得
フレッツスクウェアの使用アドレス範囲	NTT 東日本 HP にて確認
DNS サーバー	接続時に通知される

<http://flets.com/square/routing.html> にて最新のルーティングアドレス情報を確認してください。本設定例は平成 17 年 2 月 22 日時点の設定例となります。



上図構成において PPPoE マルチセッション接続設定のポイントは次のとおりです。

- ・ ファイアウォールの Outbound アクセス設定により、フレッツスクウェア宛の packets と、それ以外の packets (インターネット宛) の転送先を振り分けます。(Outbound アクセスにて上記設定を行って頂ければ、「ルーティング」にて経路の設定を行う必要はありません。ファイアウォールの Outbound アクセス制御リストを見て、通信が行われます。)
- ・ ファイアウォールの NAT 機能を使用して、LAN 側ネットワークのプライベート IP アドレスを、WAN 側インターフェースに設定されたアドレスに変換します。インターネット宛の packets は ISP から与えられたグローバル IP アドレスに、フレッツスクウェア宛の packets はフレッツスクウェアから与えられた IP アドレスに変換します。これにより、LAN に接続された複数のコンピューターから、インターネット、フレッツスクウェアへの同時アクセスが可能になります。
- ・ ルーターの DNS リレー機能をオンにして、LAN 側コンピューターからの DNS リクエストを、ISP / フレッツスクウェアの DNS サーバーに転送します。DHCP サーバーの設定により、LAN 側コンピューターに対しては、DNS サーバーアドレスとしてルーター自身の IP アドレスを教えます。
- ・ AR260S ではドメインごとに DNS リレー先を設定する必要はありません。AR260S は DNS サーバーに PPPoE0、PPPoE1 と、順に問合せを行います。

ルーターの設定

1.メニューから「LAN」「IP」の順にクリックし、LAN側IPアドレスの設定を行います。

LAN側IP設定	
IPアドレス	192.168.1.1
サブネットマスク	255.255.255.0
<input type="button" value="適用"/> <input type="button" value="ヘルプ"/>	

現在の設定	
IPアドレス	192.168.1.1
サブネットマスク	255.255.255.0

以下のメッセージが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。



2.メニューから「LAN」「DHCP」の順にクリックし、DHCPサーバーの設定を行います。DNSリレーを使用するため、プライマリDNSサーバーのIPは「192.168.1.1」とします。

DHCPサーバー設定		
IPアドレスプール	始点IPアドレス	192.168.1.10
	終点IPアドレス	192.168.1.100
サブネットマスク	255.255.255.0	
リース期限	14:00:00 (dd 日: hh 時間: mm 分)	
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1	
プライマリDNSサーバー	192.168.1.1	(オプション)
セカンダリDNSサーバー		(オプション)
プライマリWINSサーバー		(オプション)
セカンダリWINSサーバー		(オプション)
<input type="button" value="適用"/>		<input type="button" value="ヘルプ"/>

3.メニューから「WAN」 「WAN」をクリックします。

セッション ID:PPPoE0 を選択し、インターネット接続の設定を行います。

WAN設定	
接続モード	PPPoE ▾
セッションID	PPPoE:0 ▾ <input type="button" value="切断"/>
デフォルトゲートウェイ	PPPoE:0 ▾
Unnumbered PPPoE	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
ホスト名	AR260S <small>(オプション)</small>
ユーザー名	pppoe@isp1
パスワード	●●●●●●●●
サービス名	<input type="text"/> <small>(オプション)</small>
AC(アクセスコンセントレーター)名	<input type="text"/> <small>(オプション)</small>
DNSオプション	<input type="radio"/> 固定設定 <input checked="" type="radio"/> 自動取得
プライマリDNSサーバー	<input type="text"/> <small>(オプション)</small>
セカンダリDNSサーバー	<input type="text"/> <small>(オプション)</small>
MSSクランプ	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 MSSの値: <input type="text" value="40"/> Bytes
接続オプション	<input type="radio"/> ダイアルオンデマンド <input checked="" type="radio"/> キープアライブ <input type="radio"/> 無効 エコー送信間隔: <input type="text" value="60"/> 秒
<input type="button" value="適用"/> <input type="button" value="ヘルプ"/>	

4. セッション ID: PPPoE1 を選択します。PPPoE1 の設定画面に切り替わりますので、フレッツスクウェアへ接続する設定を行います。

WAN設定	
接続モード	PPPoE ▼
セッションID	PPPoE:1 ▼ 切断
デフォルトゲートウェイ	PPPoE:0 ▼
Unnumbered PPPoE	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
ホスト名	AR260S (オプション)
ユーザー名	guest@flets
パスワード	●●●●
サービス名	(オプション)
AC(アクセスコンセントレーター)名	(オプション)
DNSオプション	<input type="radio"/> 固定設定 <input checked="" type="radio"/> 自動取得
プライマリDNSサーバー	220.210.194.67 (オプション)
セカンダリDNSサーバー	220.210.194.68 (オプション)
MSSクランプ	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 MSSの値: 40 Bytes
接続オプション	<input type="radio"/> ダイアルオンデマンド <input checked="" type="radio"/> キープアライブ <input type="radio"/> 無効 エコー送信間隔 60 秒
<input type="button" value="適用"/> <input type="button" value="ヘルプ"/>	

デフォルトゲートウェイは、インターネット接続を行う PPPoE0 を選択します。

DNS サーバーのアドレスは、固定設定/自動取得のどちらでもかまいません。固定設定される場合は、NTT 東日本のホームページをご確認ください。

5.メニューから「ファイアウォール」「Outboundアクセス」の順にクリックします。フレッツスクウェアへの通信はPPPoE1を使用して通信するように設定します。その際、NATの設定はPPPoE1をPPPoE0より優先度を高く設定します。(PPPoE0のアクセス制御はデフォルトで「全て」が設定されておりますので、PPPoE1[フレッツスクウェア接続用]は、PPPoE0より優先度を高くする必要があります。)

Outboundアクセス制御設定	
ID	1
アクション	通過
優先度	1
送信元	タイプ 全て
宛先	タイプ サブネット
	アドレス 220.210.194.0
	マスク 255.255.255.128
送信元ポート	タイプ 全て
宛先ポート	タイプ 全て
プロトコル	全て
NAT	インターフェースNAT
	インターフェース pppoe1
ログ	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
VPN	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
<input type="button" value="追加"/> <input type="button" value="変更"/> <input type="button" value="削除"/> <input type="button" value="ヘルプ"/>	

Outboundアクセス制御リスト						
ID	送信元	宛先	プロトコル	NAT	アクション	
1	全て	220.210.194.0 - 255.255.255.128	全て,全て,全て	pppoe1	通過	
2	全て	220.210.195.0 - 255.255.255.192	全て,全て,全て	pppoe1	通過	
3	全て	220.210.195.64 - 255.255.255.192	全て,全て,全て	pppoe1	通過	
4	全て	220.210.198.0 - 255.255.255.192	全て,全て,全て	pppoe1	通過	
5	全て	220.210.199.0 - 255.255.255.224	全て,全て,全て	pppoe1	通過	
6	全て	220.210.198.128 - 255.255.255.192	全て,全て,全て	pppoe1	通過	
7	全て	220.210.197.128 - 255.255.255.128	全て,全て,全て	pppoe1	通過	
8	全て	220.210.199.128 - 255.255.255.240	全て,全て,全て	pppoe1	通過	
9	全て	220.210.199.160 - 255.255.255.240	全て,全て,全て	pppoe1	通過	
10	全て	全て	全て,全て,全て	pppoe0	通過	

上記アドレスについては、平成17年2月22日時点で、NTT東日本のホームページにて公開されているものを記述しております。最新情報は、NTT東日本のホームページをご確認ください。

6.メニューから「システム管理」「サービスの有効/無効」の順にクリックし、DNSリレー/DHCPを有効にします。(DHCP/DNS Relay機能はデフォルト有効です。)

サービスの有効/無効	
ファイアウォール	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
VPN	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
DNSリレー	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
DHCP	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
SNTP	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
リセットスイッチによる初期化	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効

更新日2005年2月22日